

肖像ニ關スル開化人ノ感情ヲ擧ゲテ野蠻人ノ感情ヲ明カニス

テ之カ領邑トナセリト  
又コンゴルリード氏モユカタン民族ガ其大首領ノ一人ナリト  
稱セラレタル或ル人ノ偶像ヲ崇信スルアルヲ証言セリ  
第五百五十七節野蠻人ガ此等ノ肖像ニ關シテ如何ナル感情ヲ懷  
ク乎チ更ニ十分ニ了解センガ爲メニ余輩チシテ吾人ガ肖像ニ  
關シテ懷ク所ノ同様ノ感情ヲ想起セシメヨ  
夫ノ戀人ガ其愛女ノ畫像ヲ接吻スルガ如キハ畫像ト實物トノ  
間ニ關係アリトノ感情ニ支配セラレテ然ル者タルヲ明カナリ  
トス而シテ時トシテハ斯カル感情ノ更ニ強ク發スルヲアリ現  
ニ余ノ知ル所ノ若年ナル一貴女ハ壁面ニ畫像ヲ掛ケタル室ニ  
於テハ決シ安眠スル能ハザルヲ余ニ明言セリ而シテ斯ク畫  
像ヲ忌ムトハ他ニモ其例ナキニ非サルナリ即チ斯カル場合ニ  
於テハ畫像ハ繪具ト綿布トヨリ成ルニ過ギサルヲ知ルト雖

野蠻人ガ畫像ヲ生キタル者ノ如クニ思惟スル

モ尙ホ畫像ト實物トノ間ニ關係アリトノ感情ヲ排斥スル能ハ  
ザル者ナリ蓋シ明活ナル肖像ヲ見ルキハ隨テ實物ヲ感起セザ  
ルヲ得ズシテ之ヲ知覺外ニ却クルヲ能ハザルナリ  
左レバ今試ミニ毫モ知識ナク物ノ性質、物ノ理法、物ノ原因ニ關  
スル思想決シ存セズ又當理的ノ事ト不當理的ノ事トヲ區別ス  
ル能ハズ又可有的ノ事ト不可有的ノ事トヲ區別スル能ハズト  
仮想セヨ斯カル有様ニ在テハ肖像ヲ見テ實物ノ之ニ現存スル  
トノ感情ヲ發セザルヲ得ザルナリ此感情ハ既ニ有スルノ知識  
ト衝突スルヲナキガ故ニ固定ノ謬信トナラザルヲ得ザル也  
余輩ハ第三百三十三節ニ於テ此ノ如クニシテ野蠻人ノ心ニ發ス  
ル所ノ謬信ニ偶然ニ論及セリ而テ茲ニ於テ更ニ之ガ一二ノ例  
証ヲ示ササル可カラズケイン氏ノ說ニ曰ク「シヌツク」民族ハ畫  
像ニ靈力アリト信シ之ニ對シテ死人ニ對スルト同様ノ式ヲ行

「トバンクロフト氏ノ説ニ曰クチカナガン民族ハ海岸地方ノ  
 土民ト同様ニ自己ノ畫像ヲ取ラル、フチ甚ダ嫌忌セリ」ト又余  
 輩之ヲキヤツトリン氏ニ聞ク曰ク「マソダ」民族ハ畫像ニ移リタル  
 丈ケノ生命ハ實物ノ失フ所ナリト信セリ」ト氏又曰ク  
 該民族ハ余ヲ以テ生物ヲ造リ得ル者ト思ヘバナリ彼等ハ謂ヘラク  
 ハ余ヲ以テ生物ヲ造リ得ル者ト思ヘバナリ彼等ハ謂ヘラク  
 同時ニ二所ニ於テ彼等ノ生キタル酋長ヲ見ルヲ得ルト彼等  
 ハ余ノ造リタル畫像ヲ少シク生キタル者ト信シ其眼ヲ動ク  
 者ノ如クニ思ヘリ」ト  
 又更ニ進歩セル民族ト雖モ同様ノ事實ヲ示セリ「マラガシ」民  
 族ニ關シテニルリス氏ノ曰ク公子ノ朋友ハ公子ノ寫眞ヲ見テ  
 帽ヲ取リテ之ニ敬禮ヲ表シ之ニ向テ祝詞ヲ述ヘタリ」ト  
 畫像ヲ實物ニ關係アリト思惟スルト同様ニ彫刻セル肖像ノ如

野蠻人が死  
 人ノ魂魄ノ  
 其肖像ニ現

キモ亦實物ニ關係アリト思惟スルナリ加之彫刻セル肖像ハ固  
 形体ニシテ畫像ニ比スレバ一層實物ニ近キヲ以テ之ヲ實物ト  
 關係アリト思惟スルハ更ニ當然ノ事ナリト謂フ可シ且懷疑ノ  
 念ナキ野蠻人ノ心ヲ以テスレバ彩色ヲ施シ眼ヲ嵌メ込ミタル  
 如キ肖像ヲ見ルルハ之ヲ生キタル者トスルノ感情ハ特ニ強シ  
 トス現ニ小兒ヲシテ長者ガ恐ル可キ仮面ヲ被ムリタルヲ見セ  
 シムルルハ仮令ヒ豫メ其ノ仮面ヲ之ニ示シタルノ後ト雖モ尙  
 ホ且大ニ畏怖ス可シ左レハ此事實ヲ記憶スルノ人ニ在テハ野  
 蠻人が粗ナル肖像ヲ見テ畏怖ノ感情ヲ起ス所以ノ理ヲ容易ニ  
 了解ス可キナリ死人ノ肖像ヲ見ルルハ眞ノ死人ヲ感起シ隨テ  
 眞ノ死人ノ其肖像ニ現存スルアリト想像スルナリ  
 第百五十八節、又何故ニ死人ガ其肖像ニ現存スルコトアル可カラ  
 ザル乎人ノ一箇ノ實體ハ身体ヲ去リ又之ニ再入スルヲ得ルト

存スルアリ  
ト信スル  
ノ例証ヲ示  
ス

信シ幽靈ノ回歸シテ再ヒ死体ニ活動ヲ與フルアリト信シ又ヒ  
 リユウト人ノ如キハ死体ヲ保存スルキハ他行セル實體ノ歸リテ  
 之ヲ蘇生セシムル者ト信シ又埃及人ノ如キハ魂魄ノ數千年間  
 漂泊シタル後ニ至リ再ヒ保存セル死体ニ歸ルアルヲ信セリ然  
 ラバ則チ何故ニ魂魄ガ其肖像ニ現存スルコトアル可カラザル乎  
 生キタル身体ト乾屍ト其物質ヲ異ニスルコトハ乾屍ト木造ノ肖  
 像ト其物質ヲ異ニスルヨリモ更ニ甚シキナリ  
 野蠻人ガ魂魄ノ其肖像ニ現存スルアリト信スルコトニ關シテハ  
 余輩數多ノ例証ヲ有スルナリランドン氏ハヨルバ民族ニ關シ  
 テ言テ曰ク該民族中ニ於テハ子供ノ死スルキハ其母ハ若干時  
 ノ間ハ其子供ノ木造ノ肖像ヲ運ヒ廻リ且自カラ食事ヲ爲スキ  
 ハ食物ノ一部ヲ其肖像ノ唇ニ置ケリト又バステアン氏ノ説ニ  
 據レバ「サモイド」民族ハ死人ノ木造ノ肖像ニ食物ヲ供スルト云

又「チステアツク」民族ニ關シテエルマソ氏ノ説ニ曰ク  
 該民族中ニテハ人ノ死スルキハ其親者ハ死人ヲ代表センガ  
 爲メニ木ヲ以テ粗ナル肖像ヲ造リ且此等ノ肖像ハ僧侶ノ命  
 ニ從ヒ多少ノ時限ノ間ハ神トセラル、ナリ(中略)該民族ハ食  
 事ヲ爲ス毎トニ此等ノ肖像ニ對シテ食物ヲ供シ又亡夫ヲ代  
 表スルノ肖像ハ其寡婦ニ於テ時々之ヲ抱クコトアリ(中略)斯ク  
 肖像ヲ崇拜スルノ期限ハ凡ソ三年間ニシテ其期限ニ達スル  
 キハ之ヲ燒クナリト  
 氏ハ又死シタル僧侶ノ子孫ハ其祖先ノ肖像ヲ保存シテ代々之  
 ヲ傳フルトノ緊要ナル事實ヲ記セリ氏又曰ク  
 僧侶輩ハ巧ミニ工夫セル豫言又ハ其他ノ術ヲ施シテ自己ノ  
 家神即チ其祖先ノ肖像ニ對シテモ該民族ノ一般ニ奉信スル  
 所ノ神ノ祭臺ニ供スルト同様ニ多量ナル食物ヲ供セシメシ

存スルアリ  
ト信スル  
ノ例証ヲ示  
ス

信シ幽靈ノ回歸シテ再ヒ死体ニ活動ヲ與フルアリト信シ又  
 リユウノ人ノ如キハ死体ヲ保存スルキハ他行セル實體ノ歸リテ  
 之ヲ蘇生セシムル者ト信シ又埃及人ノ如キハ魂魄ノ數千年間  
 漂泊シタル後ニ至リ再ヒ保存セル死体ニ歸ルアルヲ信セリ然  
 ラバ則チ何故ニ魂魄ガ其肖像ニ現存スルコトアルカラザル乎  
 生キタル身体ト乾屍ト其物質ヲ異ニスルコトハ乾屍ト木造ノ肖  
 像ト其物質ヲ異ニスルコトモ更ニ甚シキナリ  
 野蠻人ガ魂魄ノ其肖像ニ現存スルアリト信スルコトニ關シテハ  
 余輩數多ノ例証ヲ有スルナリランデル氏ハヨルバ民族ニ關シ  
 テ言テ曰ク該民族中ニ於テハ子供ノ死スルキハ其母ハ若干時  
 ノ間ハ其子供ノ木造ノ肖像ヲ運ヒ廻リ且自カラ食事ヲ爲ス  
 ハ食物ノ一部ヲ其肖像ノ唇ニ置ケリト又バステアン氏ノ説ニ  
 據レバ「サモイド」民族ハ死人ノ木造ノ肖像ニ食物ヲ供スルト云

又「チステアツク」民族ニ關シテエルマン氏ノ説ニ曰ク  
 該民族中ニテハ人ノ死スルキハ其親者ハ死人ヲ代表センガ  
 爲メニ木ヲ以テ粗ナル肖像ヲ造リ且此等ノ肖像ハ僧侶ノ命  
 ニ從ヒ多少ノ時限ノ間ハ神トセラル、ナリ(中略)該民族ハ食  
 事ヲ爲ス毎トニ此等ノ肖像ニ對シテ食物ヲ供シ又亡夫ヲ代  
 表スルノ肖像ハ其寡婦ニ於テ時々之ヲ抱クコトアリ(中略)斯ク  
 肖像ヲ崇拜スルノ期限ハ凡ソ三年間ニシテ其期限ニ達スル  
 キハ之ヲ燒クナリト  
 氏ハ又死シタル僧侶ノ子孫ハ其祖先ノ肖像ヲ保存シテ代々之  
 ヲ傳フルトノ緊要ナル事實ヲ記セリ氏又曰ク  
 僧侶輩ハ巧ミニ工夫セル豫言又ハ其他ノ術ヲ施シテ自己ノ  
 家神即チ其祖先ノ肖像ニ對シテモ該民族ノ一般ニ奉信スル  
 所ノ神ノ祭臺ニ供スルト同様ニ多量ナル食物ヲ供セシメ

「ナ」謀レリ然レモ其一般ニ奉信スル神ノ如キモ其起元ニ溯  
 リテ之ヲ考フルキハ矢張り高名ナル人ヲ代表スルノ肖像ニ  
 テアリシニテ歲月ヲ經ルニ從ヒ僧侶輩ノ利益ノ爲メニ之ニ  
 向テ隨意ニ種々ノ解釋ヲ付シ種々ノ靈力ヲ歸シタル者ニ外  
 ナラザルコトハ余決シテ疑ヲ容ル可カラズト信スルナリト  
 此等ノ「ナスチアック」民族ノ行フ所ハ死人ノ肖像ヲ崇信スル風習  
 ノ變遷シテ神ノ偶像ヲ崇信スルノ風習トナル者タルコト最モ  
 明瞭ニ余輩ニ示ス者ナリ何トナレハ該民族ハ此二者ヲ同視ス  
 レハナリ該民族ハ食事ヲ爲ス毎トニ先ツ食物ヲ盛リタル皿ヲ  
 家神ノ偶像ニ供シ且偶像ハ見ル可カラズニ此等ノ食物ヲ食ス  
 ル者ト信シ既ニ十分ヲ食シタリト思惟スルマテハ敢テ自ラ食  
 事ヲ爲サスシテ俟ツ(即チ斷食スルナリ)ト云フ且「ナスチアン」氏  
 ノ説ニ據レバ「サモイド」民族中ニテハ人ノ旅行スルキハ其人ノ

明治十六年十二月二十五日板權免許  
 同 十七年三月卅一日 出版

定價金七十五錢

反譯及ヒ出版

經濟學講習會

東京京橋區彌左衛門町七番地

福嶋縣平民

經濟學講習  
會幹事

石川 暎 作

發兌元

經濟雜誌社

東京京橋區彌左衛門町七番地

印 行

秀 英 舍

東京京橋區西紺屋町廿六番地



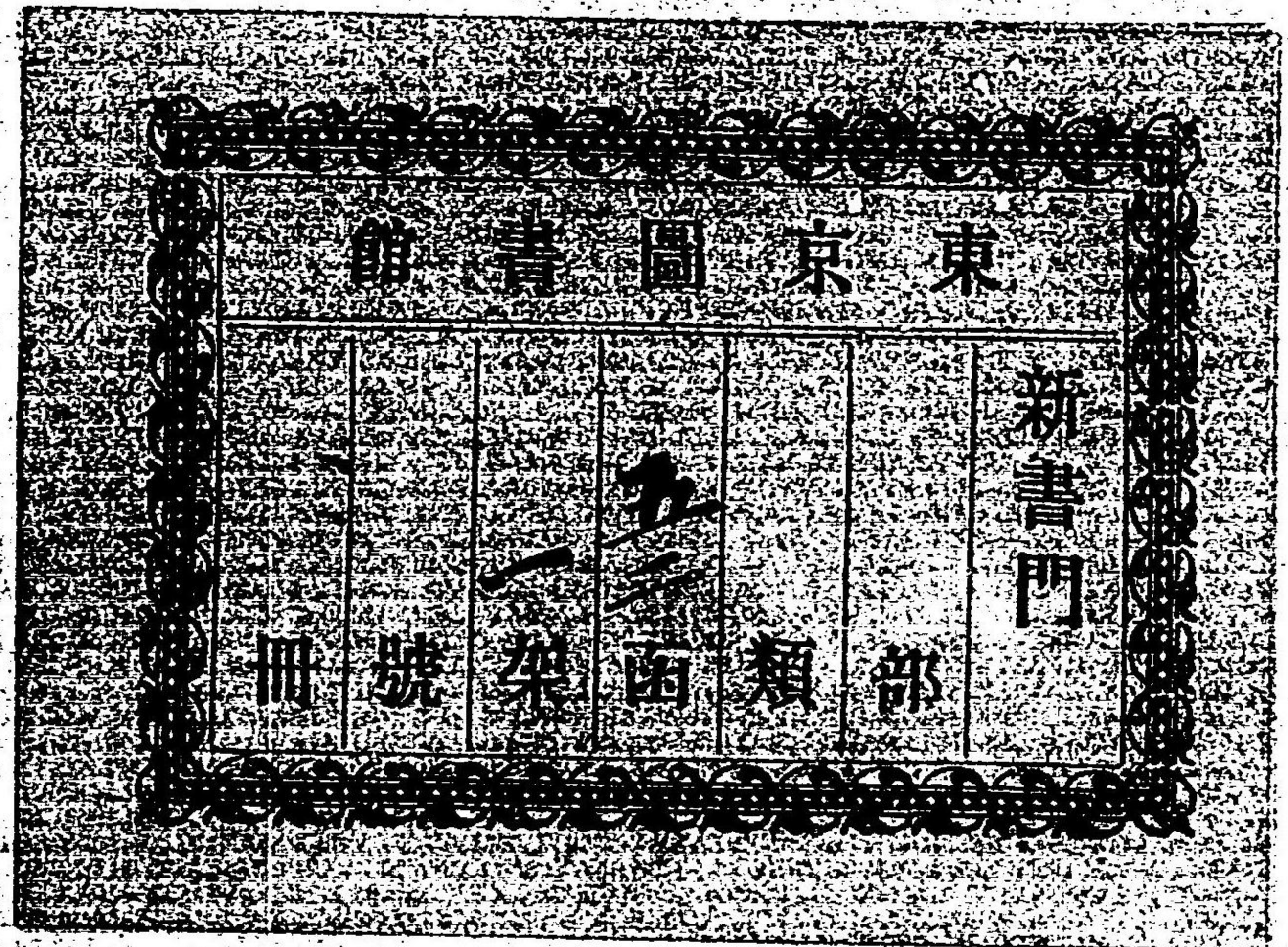
稟告

一本書社會學之原理ノ義ハ經濟學講習會講義錄第一卷ヨリ第  
 廿一卷迄ニ分載セシモノヲ合シ第一冊第二冊トシ明治十七年  
 一月第三冊ヲ發兌シ而シテ以下隔月ニ一冊宛ヲ發兌シ都合凡  
 シ八冊ヲ以テ完備セシムルモノトス但シ第一冊ヲ除クノ外每  
 冊紙數二百「ページ」トナヌ  
 一本書ハ豫約出版ノ法ニ由リテ出版スルモノニ豫約加盟者  
 エハ毎回發兌前ニ一冊ニ付キ金五十錢ノ送附アラハ府ノ内外  
 トモニ無遞送料ニテ製本一冊ヲ配送スベシ但シ本書ハ前金ニ  
 アラサレハ決メ配送セス又外人エハ定價ニアラサレハ賣渡サ  
 ルモノトス

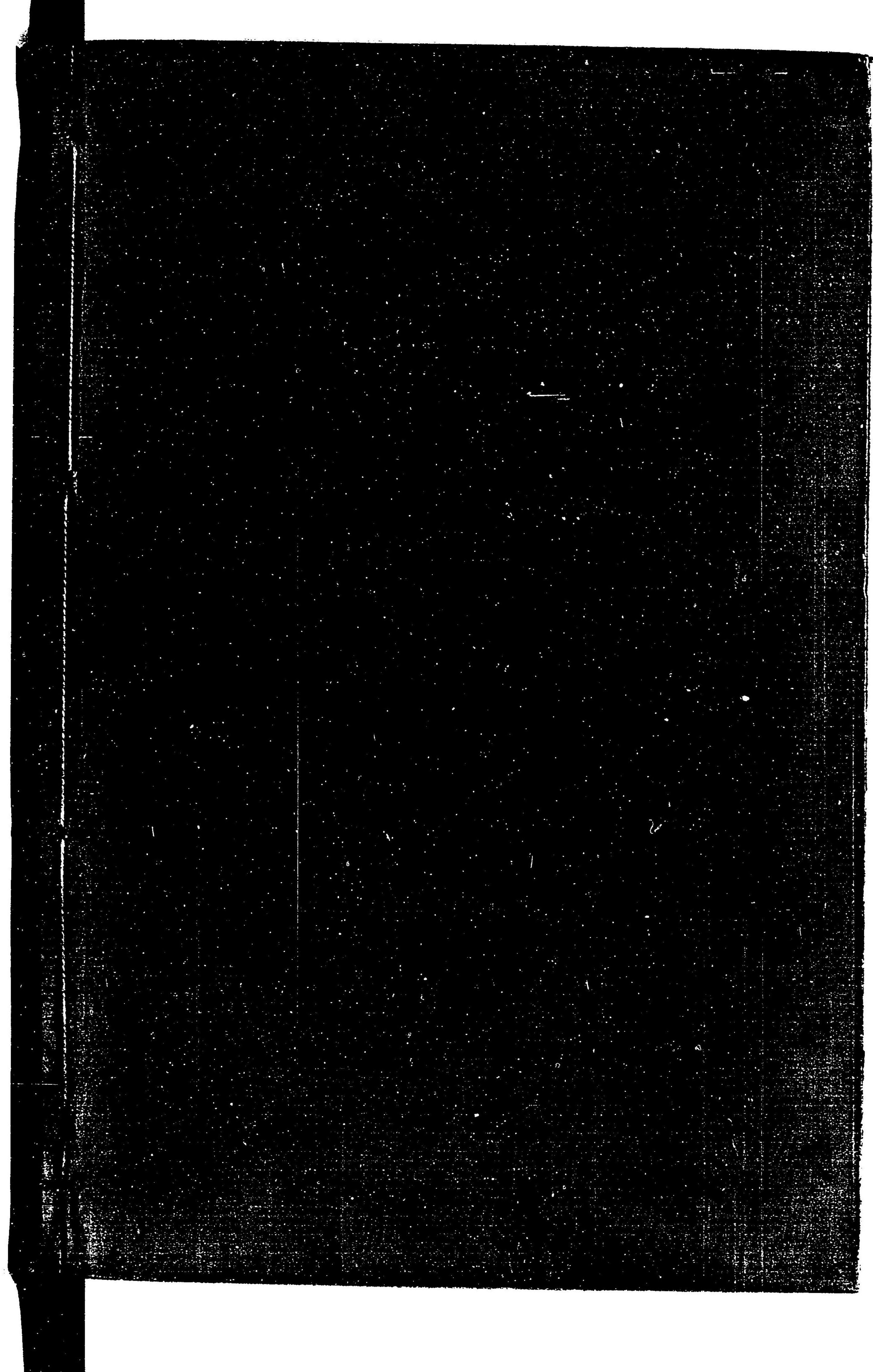
經濟學講習會發兌書目

- 英國ヘイヴンズ氏原著 德澤榮一君序 洋裝全一冊 定價一圓四十錢
- 英國小池靖一譯 會員小池靖一譯 英國金融事情 洋裝全一冊 定價一圓二十錢
- 英國キルバント氏原著 會員小池靖一譯 古代商業史 外山正一先生閱 全部凡シ八冊ノ中第四冊マテ既刻 第一第二冊定價七十五錢加盟者實價五十錢二厘五毛 第三冊以下 同 五十錢
- 英國スベンセル氏原著 會員乘竹孝太郎譯 社會學之原理 英國アダム・スミス氏原著 尺振八先生閱 全部凡シ十三冊ノ中第三冊マテ既刻 第一冊定價六十五錢加盟者實價四十五錢五厘 第二冊以下 同 七十五錢 同 五十錢
- 英國マクロード氏原著 會員後藤博見譯 富國論 全部凡シ十一冊ノ中第二冊マテ既刻 第一冊定價九十錢加盟者實價六十三錢 第二冊 同 七十五錢 同 五十錢
- 英國ケアンズ氏原著 會員田口卯吉閱 銀行論 全部凡シ三冊ノ中第一冊既刻 第一冊定價三十錢加盟者實價二十一錢
- 經濟要義 全部凡シ三冊ノ中第一冊既刻 第一冊定價三十錢加盟者實價二十一錢

右諸書ニ豫約御加盟相成リ度向キハ前記加盟者實價ニ相當スル金額相添へ御申込アラハ速  
 カニ書籍ヲ配達ス可シ







社會學之原理

四

甲